

とくべつな自転車

ぼくは、自転車であそぶのが大好きです。

古川 一哉

青森けん弘前市の冬は、雪が多いので、春から秋のいい天気の日
にいっぱい遊んでいます。

ぼくのお父さんも、

「おれも、自転車にのるのが好きだったんだ、子どもの時。」
と言っていました。お父さんがぼくぐらいの時のしゃんを見る
と、自転車にのっているところのしゃんばかりで、ぼくはお父
さんにそっくりだなあと思いました。

そんなぼくのお父さんが、今年平成十八年三月九日夜六時十分
に二十九才でなくなりました。胃ガンというびょう気でした。

お父さんは、

「春になって、まだおれが元気だったら、またいっしょに自転車にの
って走ろうな。」

とやくそくしてゆびきりもしたのに、何も言わずになくなってかな
しいです。

もうすぐ雪がとけて春になって、思いっきり自転車にのれる日が
来るというのに、その少し前になくなってしまっただすごくかなしい
です。

でも、一ついいことがあります。お父さんが去年の秋のうちに、ぼ
くを買っておいでくれた自転車があるのです。その時もびょう気で
くるしいのに、何回も休みながら店をさがし回って、かっこいい自
転車を見つけてくれました。まさかその時ぼくは、お父さんがなく
なるとは思っていませんでした。

お母さんには、

「おれが子ども時は、毎年新しい自転車を買ってもらったから、一
歳にも春になったら新しい自転車にのせてやりたいんだー。」
と言っていたそうです。

ぼくが今まで買ってもらった中で一番の自転車です。それは、な
くなったお父さんがぼくにのこしてくれたとくべつな自転車だか
らです。

その自転車には、ぼくもお父さんも気に入っているラッパやミ
ラーや、大きくてキラキラしているはんしゃきょうもついでいて、
すぐくめだちます。

お父さん、天国から、この自転車で元気にあそぶぼくを見まもっ
ていて下さい。お父さん、さいごの自転車をどうもありがとう。

ぼくはこのとくべつな自転車を、ずっと大切にしようと思ってい
ます。